

今回は、探究活動の必要性とその意味 についてのお知らせです。

◇ 課題発見・解決力を身につける探究活動とはなにか

学校教育の中では、課題発見・解決力を身につけるプログラムを探究活動と呼んでいます。大学受験の問題とはちがって、社会課題には決まりきった「正解」がありませんし、まずは、なにが課題なのかを、学び手である生徒自身が発見するところからはじまります。次に課題解決に向けた情報を収集・整理・分析し、周囲の人と意見交換・協働しながら解決提案をつくりあげます(右写真)。関高校では、1・2年次生全員が、週1回の「総合的な探究の時間」を利用して、探究活動を実践します。さらに、校内のすべての教科で探究的な学びを取り入れ、学習活動を推進しています。



探究活動で発揮される「課題発見・解決力」や「表現力」「コミュニケーション力」は、日々の授業で培われ、「総合的な探究の時間」に発揮されるというのが関高校での学びの基本的な私たちです。

◇ 探究活動はなぜ必要なのか、受験に役立つのか

社会を生き抜く力として必要 進学校に入学した以上、大学をめざすのは当たり前。高校に入学したのだから部活動に入りたいし、学校行事も楽しみたい。この上、探究活動を行う時間なんてあるのか。第一、受験勉強のさまたげになるのではないのか。

当然、出てくる疑問です。しかし、与えられた課題に対し、誠実に取り組んで正解を見出すといった従来の考え方は、すでに一般社会では通用なくなっています。若い皆さんが、社会を生き抜く力を身につけるためにも、探究活動に励むことをお勧めします。

自分の持ち味を生かす、仲間と楽しむ 本やインターネットを使った調べ学習。課題を見つけ、解決のためのアイデアを出すための話し合い。レポートの作成。オンラインでの交流。工場や観光地をめぐるフィールドワーク。ポスターやスライドづくり。口頭発表。様々な活動にチャレンジする中で、きっと、自分にあった活動、自分の個性や特技を生かせる場面に出会えると思います。

人前で話すことは苦手だけど動画作成やポスターづくりは得意。はじめて出会った人の前でも緊張せずに話をするができる。苦手と思っていたけどやってみたら楽しかった・

皆さんの様々な個性が、キラリとひかる瞬間が、探究活動の中できっと見出せるのではないのでしょうか。しっかり取り組んだけど結果が出せなかった。そんなケースもありますが、その場合でも、うまくいかなかった理由を考察できればそれも立派な活動です。その時失敗だと思ったことが、数年後振り返ってみると、意外な成果を生んでいたとか、そんなことは探究活動には付き物です。仲間や地域の人たちとともに、ぜひ探究活動を楽しんでください。

進学に向けた勉強との関係性 大学入試改革が進んだ結果、共通テストや国公立大学個別入試、私大入試の傾向も変わりつつあります。マーク問題であっても、複数の資料・データを多角的な視野からとらえる出題、限られた時間の中で正解を求める情報分析力や思考力が必要とされる出題が増えています。従来型の「丸暗記」や「過去問題の繰り返し演習」で切り抜けることが難しくなっています。探究活動で培った総合的な力が、じわじわと発揮されるのはそういった場面です。

また、学校推薦型選抜(旧推薦入試)や総合型選抜(旧AO入試)においては、探究活動の成果を重視されることもありますし、一般入試でも、小論文や総合問題、面接などが課されるケースもあります。

探究活動で得たスキルや知識を生かす場面は、今後増加すると考えられます。